

## 秋田県の近代化遺産総合調査

### 建造物研究室

秋田県近代化遺産の総合調査は、平成2年度から始まった。対象物件を網羅的にひろいあげ第1次調査からスタートし、第2次調査ではリストアップされた約1,300件の物件のうち約3分の1を選定して、沿革や現状に関するやや詳しい調査を実施した。平成3年度は前年度までの成果をうけて、とくに重要と思われる物件を57ヶ所111件選びだし、より詳細な調査をおこなった。第3次調査の対象物件は、産業関係(41ヶ所85件)・交通関係(14ヶ所24件)・土木関係(2ヶ所2件)に分かれる。

**産業に関わる遺産** 農業、林業、養蚕・製糸・織物業、鉱業(鉱山・油田)、水力発電、酒造・醸造業などの諸産業にかかわる遺産を調査した。ここでは、秋田県の近代化を推進する担い手として、とくに重要な役割をはたしてきた鉱山と油田についてのべておく。

秋田の鉱山は、佐竹藩の財源として近世から稼動しており、とりわけ阿仁銅山と院内銀山が全国的にその名を知られていた。維新後まもなく、小坂にC・A・ネットー、大葛にR・カーライル、阿仁にA・メッツゲル、院内にC・バンサ等の外国人が招聘され、鉱山技術の近代化が胎動しはじめる。その後、明治33年の小坂鉱山における自焙製錬法の確立を契機として、鉱山の近代化は大きく前進したが、戦後、鉱石枯渇により閉鉱・休山があいつぎ、現在では、わずかに小坂で銅の製錬業務が存続しているにすぎない。こうした斜陽化にともない、続々と関連施設は撤去されてきたが、それでもなお多くの遺構が残り、鉱山全盛期の面影を伝えている。

とりわけ小坂鉱山には、45件もの関連施設が現存する。そのなかには小坂鉱山事務所(明治38年)や康楽館(同43年/県指定文化財)などの宏壮華麗な洋風木造建築、日延銅場(同38年)や電練場(同42年)などの煉瓦建造物、さらに旧鑄造仕上場(同37年)や元山浄水場濾過室(同38年)などの木骨煉瓦壁の建造物がふくまれる。このほか、院内銀山の動力源として明治33年に竣工し、現在なお近在に電力を供給しつづける樺山発電所は、秋田県最古の発電所遺構であり、特異な石造近代建築として注目に値する。

一方、油田も、やはり明治の初めから、B・S・ライマンやE・ナウマンが、院内・旭川・濁川・黒川などの油田を調査し、良好な油層を確認していたが、経営にみあう機械操業が可能になったのは、大正末年からである。しかし、近年、油層の枯渇から次々に油田は閉鎖され、現在なお採油を続けているのは院内・黒川・豊川の3地区のみとなった。

これらの油田では、いずれもロータリー式の機械掘りをおこなっている。仁賀保町の院内油田を例にとると、大正12年以来394の油井坑がほられたが、現在稼動中の井戸は89坑で、9ヶ所のポンピング・パワー(PP)が健在である。PPとは、複数の油井を掘削するための動力源を意味し、30～50馬力のモーターが据えつけられている。このモーターによって生じる縦回転運動を、材バンドという直径約5mの鉄製リングによって横回転運動に変換し、さらに材バンドの下に

とりつけたエキセントリックによって、水平方向の往復運動を生じさせる。このエキセントリックに10本あまりのプーリンク・ロットをひっかけ、そこにワイヤーロープをつないで、水平往復運動を油井に伝達し、採集ポンプの位置でこの水平方向の力を垂直方向の往復運動に変換して、油とガスをくみあげるのである。きわめて素朴な採油手法ながら、近代産業技術の足跡を示す生き証人として、貴重な遺産の一つといえよう。

**交通・土木に関わる遺産** 陸上交通（道路橋梁・鉄橋・トンネル・駅舎・機関車庫）と海上交通および港湾施設（防波堤・倉庫・台場跡・上水道水源地堰堤・砂防堰堤）に関する遺産を調査した。交通関係の遺産のなかには、江戸時代後期に遡るものもふくまれている。高磯森台場跡・金浦谷場跡などの幕末の軍事施設、18世紀から建造されていた波除石垣、さらに佐竹秋田藩の藩倉であった土崎湊御蔵などである。建築史的には、土崎湊に残る4棟の倉庫がとくに注目される。4棟のうち、2棟は棟持柱上の舟肘木で棟木をうける古風な構造をもち、材の風蝕も進んでいるので、幕末以前に遡ることは間違いない。一方、素朴なキングポスト・トラスを架けたのこりの2棟は、文書記録により明治13年の建造と知られる秋田県最古の洋小屋建築である。同じ海運系の倉庫でも、時代が下ると建築形式が大きく変化する。大正5年頃の建造と思われる船川港の旧船川倉庫・米倉は、土蔵の外壁を石張りにした力強い外観をもち、内部の小屋組には和小屋と洋小屋の折衷架溝を採用している。いずれも、秋田の地域性をつよく感じさせる近代産業建築といえよう。

文化財としての近代化遺産は、「生きている」対象として保持対策に多くの困難をとまなう。また近代産業構造の解体のなかで、廃絶の危機にさらされている例も少なくない。しかし、日本各地で花開いた近代化の歴史を具体的に物語る遺産としての価値は大きく、保存と活用のための早急な対応が望まれる。

調査の成果は『秋田県の近代化遺産 ―日本近代化遺産総合調査報告書―』（秋田県教育委員会、1992年3月）として刊行した。 （浅川滋男）

旧土崎湊御蔵（10号倉庫）

小坂鉦山事務所

旧船川米倉断面図